受験生の入試までの過ごし方を考える

―開倫塾で本格的な受験勉強を―

開倫塾
塾長 林　明夫

Q：年が明けて新年となり、入学試験まではもうわずかとなりました。受験生は入試までどのように過ごしたらよいのですか。

A：入試直前ですから、眠る時間以外はひたすら一心不乱に机に向かうこと、本格的な受験勉強を行うことに尽きます。

Q：本格的な受験勉強とは何ですか。

A：(１)3 つあります。

１つ目は、各教科ごとに勉強すべきテキストを１つ決め、目次から索引までをスミからスミまで一語残らず「うんなるほど」と十分に「理解」すること、「理解」した内容は一語残らず正確に身に着けることです。

(２)自分で決めたテキストの「理解」に欠かせないのが、「辞書」と各教科の「用語集」、学年別・教科別の「参考書」の３冊です。

①わからないことばがあったら気持ちが悪いと思い、必ず辞書を用いて調べること。辞書で調べたことは「意味調べノート」に書き写し、その場で覚えること。書き取り練習をして書けるようにすること。

②辞書で調べてもわからないことばは各教科の用語集や学年別・教科別の参考書で調べて、どのような内容であるかの「理解」に努めること。それでもわからなければ、学校や開倫塾の先生に質問してください。

③数学や理科の「計算」や「問題」はノートにすべてやり直し、なぜそのような答えになるかを考えること。どうしてもわからない場合は、「解答集」の「解説」や「正解」を書き写し、参考書の類似問題をやって、よく考えること。それでもわからなければ、学校や開倫塾の先生に質問してください。

Q：２つ目は何ですか。

A：(１)入試の過去問を 5 ～ 6 年分、できれば 10 ～ 15 年分自分の力でノートに解いてみることです。

(２)なぜそのような答えになるかがよく「理解」できて正解した問題は、OK です。

(３)大切なのは、なぜそのような答えになるのかが十分に理解できなかった問題と、間違えた問題です。必ずもう一度やり直してください。

(４)もう一度やり直しても、なぜそのような答えになるのかがわからなかったり、答えを間違え

たり、答えを出すことができなかったりしたらどうするか。

(5)「解答・解説」を学校や開倫塾の先生の授業をお聞きするような熱心さで一語一語ていねいに「ノートに書き写す」ことをお勧めします。

(6)必要なら、辞書や用語集、参考書などを用いて調べること。調べた内容は「ノートに書き写す」ことです。

(7)その上で、その問題をもう一度ノートに解き直してみること。

(8)それでもなぜそのような答えになるのかがよくわからなければ、学校や開倫塾の先生に質問してくださいね。

＊受験勉強で大切なのは、なぜそのような答えになるのかを「理解」することです。わからないまま放っておかないことです。

Q：3つ目は何ですか。

A：(1)一度「理解」した受験勉強の「テキスト」と、一度解いたすべての「問題」を「本文」だけでなく「設問」「選択肢」「解答・解説の全文」を含めて「スミからスミまで」正確に身に着ける、つまり「定着」させることです。

(2)各教科の受験勉強のテキストとその日に解いたすべての過去問などの問題の本文、設問、選択肢、解答・解説すべてについて「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、正確に覚えることです。

(3)音読練習のポイントは、まずは「スラスラとよく読めるようにすること」、次に「何も見ないでスラスラと言えるまでにすること」です。

(4)書き取り練習のポイントは、「教科書の書体(楷書(かいしょ))で正確に書けるまでにすること」です。

(5)計算・問題練習のポイントは、「計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解がパッパッパッと出てくるまでにすること」です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)各教科の内容をいくら勉強しても、10 ページにもおよぶ入試の問題本文と設問のすべてを正確に読み込んで試験時間内に正解を出すのには「読解力」が不可欠です。

(2)問題本文と設問を時間内に読み終えなければ、希望校合格など夢のまた夢だからです。

(3)どんなことをしても、希望校の全教科の入試問題を時間内に最後まで正確に読む力、つまり「読解力」を身に着けなければなりません。それを身に着けるのに不可欠なのが「辞書」と「本」と「新聞」です。受験前日、否、受験当日の試験問題が配付される直前まで「辞書を引いて引いて引きまくる」、

(4)「受験勉強のテキストと本と新聞をひたすら読んで読んで読みまくる」。これが、本格的な受験勉強に臨む受験生の姿です。

＊非受験学年の皆様も、これを参考に今から机に向かえば、必ず希望校合格が実現します。

2016 年 1 月 12 日（火）記

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)